



日本消化器癌発生学会

News Letter

<http://plaza.umin.ac.jp/~jsgc/>

2002 No.1

第13回消化器癌発生学会総会を開催のお知らせ

1989年に大原 毅理事長が第1回消化器癌の発生と進展研究会を主催されて以来、研究発表数、内容とも充実の一途をたどり、1997年には曾和融生会長のもと本学術集会は学会として発展し、第8回学会が大阪で開催されました。今回、再び大阪の地で第13回の学術集会を9月5日(木)・6日(金)にお世話させて頂くことになりました。

光栄に存じますとともに、大原 毅理事長以下、諸先生方のご指導、ご鞭撻を賜りましたこと深く感謝申し上げます。

本学術集会は、消化器癌の発生と進展に関する多角的な優れた研究の成果が、基礎と臨床の立場から数多く報告され、内外からも高い評価を受けて参りました。このような質の高い発表が維持されてきた根底には、本学会の主旨である基礎と臨床の接点が拡大されてきたことが大きな一因であったかと思われます。そこで、今第13回学会においても、あらためて、基調テーマを「消化器癌における基礎と臨床の接点」とし、広く演題を応募させて頂くことにさせていただきました。消化器癌治療の中核は依然外科治療であることを考えた場合、3年ぶりの外科系の会長として、消化器癌治療成績向上を目指した基礎と臨床の接点に関する研究成果をご報告していただくことをお願いする次第です。

第13回学会では、特別講演をミシガン大学教授でJournal of Clinical InvestigationのChief EditorであるStephen J Weiss教授に消化器癌の進展の上で重要なマトリックスメタプロテアーゼに関するご講演を予定しております。また、セミナーとして、COX-2と消化器癌に関する話題、肝転移に対する動注療法や進行肝臓癌に対するインターフェロン併用化学療法の話、さらにDNAマイクロチップを利用した抗癌剤感受性の話題の4題を予定しております。なお、今回の演題募集では、あえてシンポジウム、パネルディスカッション、ワークショップの主題を決めず、消化器癌における前癌病変、発癌予測、予防、分化制御、炎症の関与、遺伝子解析、遺伝子変化、エピジェネティックな変化、分子標的治療、転移の基礎と臨床、抗癌剤・放射線感受性、免疫療法、遺伝子治療、二次発癌に関する演題を応募させていただき、応募内容に沿ってシンポジウム等を企画させていただきます。さらに、新たに、臨床からの問題の提起ということで、消化器癌の発生、進展を知る上で興味ある症

例報告のご発表の応募いただければ幸いです。

今回の学会が、今後の消化器癌の治療成績向上につながることを期待して、皆様からの積極的な演題の応募をお待ちしております。

大阪大学大学院病態制御外科

第13回消化器癌発生学会総会

担当：中森正二

第13回日本消化器癌発生学会総会(大阪、豊中)アカデミー宿泊予約画面の用意ができました。

画面のURLは次のとおりです(K e yコード入力いただくことでアカデミー限定プランがご予約いただけます)。なお、学会は予約に関しての責任等は一切負いかねますのでご了承下さい。

[ベストリザーブ]

<http://oas.bestrsrv.com/reserve/acad?no=12>

[K e yコード] [jsgc13]

[予約開始日時] 2002年7月1日



会長 門田守人先生



会場 千里ライフサイエンスセンター

目次

第13回消化器癌発生学会総会を開催のお知らせ	1
理事会議事録	2
国際委員会報告	
編集委員会報告	
役員選考委員会報告	
会則	3~4
役員、評議員一覧	4
主な委員会報告	5
理事・監事立候補者の募集について	
評議員立候補者の募集について	
掲載論文一覧	6
第3回国際会議案内	7
日本消化器癌発生学会総会歴代会長	8
編集後記	8

/ 理 / 事 / 会 / 議 / 事 / 録 /

2002年2月8日

平成14年度日本消化器癌発生学会理事会議事録

東京国際フォーラム

出席 (敬称略)

大原 毅, 井藤 久雄, 今井 浩三, 内田 雄三,
小川 道雄, 恩田 昌彦, 杉町 圭蔵, 寺野 彰,
磨伊 正義, 門田 守人, 安井 弥, 上西 紀夫

1) 国際委員会報告 (安井理事)

2002年3月13日から16日まで、ドイツ (ミュンヘン) のHoefer教授の主催で行われる予定であった第3回消化器癌国際会議が開催中止になった。中止に至った経緯として、アメリカ同時多発テロ事件の影響があること、ドイツマルクからユーロへの切り替え時期にあたり参加登録に混乱がみられたこと、同時期にミュンヘンで消化管内視鏡関連の学会があることなどで、財政的に困難であることがHoefer教授から説明されている。次回の国際会議は2004年にアメリカMDアンダーソンセンターのバーナード・レビン教授の主催で行われる予定であるが、その開催期日については引き続き国際委員会で検討する。又、次々会の開催地は日本と決定した。

2) 編集委員会報告 (今井理事, 上西理事)

2001年のJECCR論文掲載状況が報告された (別表参照)。なおOfficial Journalとして英文誌の質的向上を図る方向で今後引き続き検討することとなった。

3) 役員選考委員会報告 (内田雄三理事)

(会則施行細則第1号参照)。

理事長の任期満了にともない、新理事長として候補者について検討した。次回の理事会で決定する予定である。平成14年9月の評議委員会、総会の承認を得て決定される予定である (会則施行細則第1号第4節の1)。また、理事3名 (大原毅理事, 恩田昌彦理事, 田原栄一理事), 監事2名 (青木照明監事, 二川俊二監事) の任期満了にともない、新理事, 新監事選考の手続きをすすめることとなった。新理事, 新監事に立候補を予定される評議員は5月末日まで書類申請を事務局役員選考委員会で受け付けることとなった (会則施行細則第1号第5節の1, 同第7節の1)。

また評議員に立候補する会員についても、会則施行細則第1号第6節にしたがい、5月末日まで書類申請を事務局役員選考委員会で受け付けることとなった。

夏目漱石 (1867~1916)
作家。胃潰瘍が持病で、43歳の時、療養先の修善寺で大吐血し、生死の境をさまよった。その後も再発を繰り返し、1916年、長編小説「明暗」の執筆半ばで、胃潰瘍のために49歳の生涯を閉じた。

H₂受容体拮抗剤
指定医薬品

薬価基準収載

効能・効果、用法・用量、禁忌を含む
使用上の注意、用法・用量に関連する
使用上の注意等につきましては添付
文書をご参照ください。

プロテカジン®錠5・10
PROTECADIN® tablet 5・10 一般名：ラファジン

■資料は当社医薬情報担当者にご請求ください。

製造販売元
資料請求先
(お客様相談室)

TAIHO

大鵬薬品工業株式会社

〒101-8444 東京都千代田区神田錦町1-27
TEL.03-3294-4527 (代表)

2002年4月作成

●日本消化器癌発生学会 会則

第1章 総則

第1条 名称

本会は日本消化器癌発生学会（The Japanese Society for Gastroenterological Carcinogenesis、以下、本会と略記）と称する。

第2章 目的および事業

第2条 目的

本会は、日本消化器癌発生研究会の業績を継承し、消化器癌の発生および進展に関する研究を行い、消化器癌の診断、治療および予防の向上、発展を図り、人類の福祉に寄与することを目的とする。

第3条 事業

本会は、前条の目的を達成するために次の事業を行う。

- (1) 年一回の総会、学術集会の開催
- (2) 機関誌および学術図書などの刊行
- (3) 内外の関係学術団体との連絡および提携
- (4) その他、本会の目的を達成するため必要な事業

第3章 会員

第4条 種別

本会の会員は次のとおりとする。

- (1) 正会員 本会の目的に賛同して入会したもの
- (2) 名誉会員 学術集会会長の経験者、永年理事をつとめた者ならびに本会に特別の功労のあったものの中から、理事長が理事会および評議員会の議を経て推薦したもの
- (3) 特別会員 永年評議員を務めたもの、ならびに本会に大なる功労のあったものの中から、理事長が理事会および評議員会の議を経て推薦したもの
- (4) 賛助会員 本会の目的に賛同し、本会の発展に協力を希望する個人、法人あるいは団体とし、理事会の推薦を得て評議員会の承認を経たもの

第5条 入会

本会に入会を希望するものは、所定の手続きを経て本会事務局に申し込み、理事会の承認を受けなければならない。

第6条 会費

1. 会員は、総会において別に定めるところにより会費を納入しなければならない。
2. 名誉会員および特別会員は、会費を納めることを要しない。

第7条 資格の喪失

会員は、次の事由によって資格を喪失する。

- (1) 退会したとき
- (2) 死亡したとき
- (3) 除名されたとき

第8条 退会

会員が退会しようとするときは、理由を付して退会届を理事長に提出しなければならない。

第9条 除名

会員が次の各号の一つに該当するときは、理事会の議決を経て理事長が除名することができる。ただし、理事会で弁明する機会をあたえなければならない。

- (1) 本会の名誉を傷つけ、または本会の目的に反する行為のあったとき
- (2) 本会の会員としての義務に違反したとき
- (3) 会費を2年以上滞納したとき

第10条 会費等の不返還

会員が既に納入した会費、その他拠出金は、これを返還しない。

第4章 役員等および職員

第11条 役員

本会には次の役員をおく。

- | | |
|-----------------------|------------|
| (1) 理事長 | 1名 |
| (2) 理事 | 10名以上15名以内 |
| (3) 評議員 | 正会員の10%以内 |
| (4) 監事 | 2名 |
| (5) 学術集会会長（以下、会長） | 1名 |
| (6) 次期学術集会会長（以下、次期会長） | 1名 |

第12条 役員の選出

1. 理事長、理事、評議員および監事は別に定めるところにより選出される。
2. 会長は、理事会の推薦により評議員会の議を経て、総会の承認を受ける。
3. 次期会長は、理事会の推薦により評議員会の議を経て、総会の承認を受ける。

第13条 役員の職務

1. 理事長は、本会を代表し会務を統括する。
2. 理事、会長、次期会長は、理事会を組織し会務の審議および本会の運営にあたる。
3. 評議員は、評議員会を組織し本会の運営に必要な事項について審議する。
4. 監事は、本会の会計監査および会務の監査にあたる。
5. 会長は学術集会を主宰する。
6. 次期会長は、会長を補佐し、会長に事故あるとき、または欠あるときはその職務を代行する。

第14条 職員

1. 本会の事務を処理するため職員若干名を置くことができる。
2. 職員は有給とし、理事会の議を経て理事長がこれを任免する。

第5章 会議

第15条 種別

本会の会議は総会、評議員会および理事会とする。

第16条 総会

1. 総会は、正会員、特別会員および名誉会員をもって構成する。
2. 理事長は、原則として年一回の総会を招集し、理事会および評議員会の決定事項を報告する。
3. 総会は、この会則に別に定めるものの他、次の事項を議決する。

- (1) 事業計画および収支予算
- (2) 事業報告および収支決算
- (3) その他、本会の運営に関する重要事項
4. 総会における議事は、総会出席者の過半数をもって決し、可否同数のときは議長の決するところによる。
5. 総会の議長は理事長とする。

第17条 評議員会

1. 理事長は、必要に応じて評議員会を召集する。
2. 理事長は、評議員の過半数または監事の請求がある時は評議員会を召集しなければならない。
3. 評議員会の成立には、委任状を含めて評議員の過半数の出席を要し、議事の決定は出席者の過半数をもって決し、可否同数の時は議長の決するところによる。
4. 評議員会の議長は会長とする

第18条 理事会

1. 理事長は、必要に応じて理事会を召集する。
2. 理事長は、評議員の過半数または監事の請求がある時は理事会を召集しなければならない。
3. 理事会の議長は理事長とする。

第19条 学術集会

学術集会は、定例集会のほか、時宜に応じてこれを開催することができる。

第6章 委員会

第20条 委員会および委員

1. 本会は、その業務を行うために必要とする委員会をおくことができる。
2. 委員は、理事会の議を経て理事長がこれを委嘱する。

第7章 会計

第21条 会計

1. 本会の経費は、会費、寄付金、その他をもってこれにあてる。
2. 本会の会計年度は、毎年6月1日から翌年5月31日までとする。

第8章 会則の変更

第22条 会則の変更

本会の会則は、理事会および評議員会の議を経て総会の承認を得なければ変更することは出来ない。

第9章 解散

第23条 解散および残余財産の処分

1. 本会は、理事会および評議員会においてそれぞれ構成員の3/4以上の同意を得たうえ、総会において正会員

の2/3以上の同意を得て解散することが出来る。

2. 解散に伴う残余財産の処分は、理事会および評議員会の議決と総会の承認を得て行う

第10章 補足

第24条

本会は、日本消化器癌発生研究会の事業および財産を継承する。

第25条

本会則の施行に必要な細則は、理事会および評議員会の議決を経て別に定める。

付則

1. 本会則は平成9年9月4日より施行する。
2. 本会則は平成13年9月7日一部変更した。

●役員、評議員一覧

(平成13年9月7日現在)

理事長 大原 毅

理事 (15名)

井藤 久雄	今井 浩三	内田 雄三	大原 毅
小川 道雄	小俣 政男	恩田 昌彦	上西 紀夫
杉町 圭蔵	田原 榮一	寺野 彰	磨伊 正義
三輪 晃一	門田 守人	安井 弥	

会長 門田 守人

次期会長 三輪 晃一

監事 (2名)

青木 照明 二川 俊二

名誉会員 (6名)

金澤 暁太郎	下山 孝	杉村 隆	曾和 融生
長町 幸雄	長与 健夫		

特別会員 (22名)

磯野 可一	岩永 剛	岡島 雄一	邦雄 淳	小越 章平
梶山 悟朗	栗原 利彦	藤 曾我	栄 能樹	佐藤 俊一
斉藤 昌三	斉藤 正三	比企 三輪		高橋 映五
船曳 孝彦	馬場 力也			廣田 泰敏
福富 久之	藤田 達郎			武藤
安富 正幸	山川			

評議員

愛甲 孝	青木 照明	50音順	高行 俊	朝倉 均
浅原 利正	飯石 浩康	浅尾 石川	隆俊 文生	板橋 正幸
井藤 久雄	伊藤 喜久治	伊東 伊東	文 寛	今井 浩三
今村 正之	内田 雄三	江上 大平	雅 昌彦	江角 道明
太田 慎一	大原 政男	恩田 加藤	俊 政樹	小川 信之
沖永 正男	小俣 隆之	北島 熊谷	秀 裕	貝原 龍之介
笠原 紀夫	川口 実	高後 澤田	鉄 二	倉本 秋
国安 弘基	久保田 啓朗	嶋田 嶋田	圭 蔵	小西 陽一
桑野 信彦	桑野 佐治	白 高橋	誠 夫	塩崎 光生
西文 雄也	嶋田 白水	立松 正衛	雅 昭	砂川 正勝
島山 嘉伸	嶋田 高橋	田原 榮一	俊 一	田澤 賢次
炭田 正晴	嶋田 立松	仲田 文造	弘 昭	田中 紀章
竜田 憲俊	嶋田 新津	平川 弘聖	輔 公	寺野 彰
谷田 也志	嶋田 平川	藤盛 孝博	俊 二	中島 宏
長嶋 和郎	服部 隆則	松川 正明	健 夫	倉野 剛
成澤 昭治	福島 喜彦	松本 由朗	晃 一	平山 廉三
服部 昭彦	前原 正紀	真船 三輪	守 人	磨伊 正義
源松 利成	棟方 昭博	渡辺 門田	敦 光	三武 秀一
横崎 宏				安井 弥

事務局幹事 (2名)

清水 伸幸 下山 省二



信頼を継ぐ。
カイトリルは第二楽章へ。

Cond. by 日本ロシュ

5-HT₃受容体拮抗型制吐剤

劇薬、指定医薬品、要指示医薬品

薬価基準収載

カイトリル® 注射液

錠1mg, 錠2mg
細粒

Kytril®

塩酸グラニセトロン製剤

注意一医師等の処方せん・指示により使用すること

※効能・効果、用法・用量、用法・用量に関連する使用上の注意、禁忌を含む使用上の注意等については製品添付文書をご参照ください。

販売元(資料請求先)

日本ロシュ株式会社

〒105-8532 東京都港区芝2-6-1

<http://www.nipponroche.co.jp/>

問合せTEL ☎ 0120-642-644

輸入・製造元

グラクソ・スミスクライン株式会社

〒151-8566 東京都渋谷区千駄ヶ谷4-6-15



2001年6月作成

主な委員会報告

理事・監事立候補者の募集について

この度、理事の内田雄三先生・大原 毅先生・恩田昌彦先生が任期満了となり3名の欠員が、また監事の青木照明先生・二川俊二先生が任期満了となり2名の欠員が生じます。これに伴い、会則に従い（会則・会則施行細則の抜粋を以下に記載）立候補者を募集いたします。立候補予定の先生は学会事務局までご連絡下さい。

評議員立候補者の募集について

この度、数名の先生方の任期満了により、評議員に若干名の欠員が生じます。これに伴い、会則に従い（会則・会則施行細則の抜粋を以下に記載）立候補者を募集いたします。立候補予定の先生は学会事務局までご連絡下さい。

日本消化器癌発生学会会則（抜粋）

第4章 役員等および職員

第11条 役員

本会には次の役員をおく。

- | | |
|---------|------------|
| (2) 理 事 | 10名以上15名以内 |
| (3) 評議員 | 正会員の10%以内 |
| (4) 監 事 | 2 名 |

第12条 役員の選出

1. 理事長、理事、評議員および監事は別に定めるところにより選出される。

日本消化器癌発生学会会則施行細則第1号（抜粋）

第5節 理事についての細則

1. 理事は、次項に定める有資格者の中から理事会の推薦により、評議員会および総会の承認を得て決定される。
- (1) 満65歳未満の評議員
- (2) 理事になる時点で連続5年以上の会員歴を有し、会費を完納しているもの
- (3) 理事2名の推薦を得たもの
2. 理事の任期は4年とし、再任をさまたげない。
3. 定期改選時以外の時に選出された理事の任期は、次の定期改選時までとする。
4. 理事は、その任期中は評議員の資格を有するものとする。
5. 理事になることを希望するものは、所定の書類と推薦状を理事会に提出しなければならない。
6. 理事は監事を兼ねることはできない。

第6節 評議員についての細則

1. 評議員は、次項に定める有資格者の中から理事会の推薦により、評議員会および総会の承認を得て決定される。
2. 評議員となり得るものは、次のすべての資格を有するものとする。
- (1) 満65歳未満の正会員
- (2) 評議員になる時点で連続3年以上の会員歴を有し、会費を完納しているもの。
- (3) 評議員2名の推薦を得たもの。
3. 評議員の任期は2年とし、再任をさまたげない。
4. 評議員は、理由なく連続して2回評議員会を欠席した場合その資格を失う。
5. 評議員の定年を満65歳とする。ただし任期は定年に達した年の会計年度末までとする。
6. 評議員になることを希望するものは、所定の書類と推薦状を理事会に提出しなければならない。

第7節 監事についての細則

1. 監事は、理事を除く評議員の中から理事会の推薦により、評議員会および総会の承認を得て決定される。
2. 監事の任期は4年とし、再任をさまたげないが連続して2期をこえてはならない。

エーザイ

著 者	所 属	論 文 名	掲 載
大野 和子	東京大学大学院 農学生命科学研究所	Effect of bacterial metabolism in the intestine on colorectal tumors induced by E1,2-dimethylhydrazine in transgenic mice harboring human prototype c-Ha-ras genes	vol.20, n1, 2001, 51-56
西川 秋佳	国立医薬品食品衛生研究所	Reporter gene transgenic mice as a tool for analyzing molecular mechanisms underlying experimental carcinogenesis	vol.20, n1, 2001, 111-115
辻 晋吾	大阪大学大学院病態制御内科	Cyclooxygenase-2 upregulation as a perigenetic changes in carcinogenesis	vol.20, n1, 2001, 117-129
金沢 昌満	久留米大学外科	Significance of cysteine rich transcription factor (CRTF) in the sentesin tissue inhibitor of Metalloproteinases 1 (TIMP 1) in gastrointestinal cancers.	vol.20, n1, 2001, 145-151
松岡 翼	大阪市立大学第1外科	Effect of matrix metalloproteinase inhibitor on a lymph node metastatic model of gastric cancer cells passaged by orthotopic implantation	vol.20, n2, 2001, 213-218
福井 里佳	札幌医科大学第1外科	Adenosquamous carcinoma of the rectum: Report of two cases	vol.20, n2, 2001, 293-296
澤井 照光	長崎大学第1外科	Instability of chromosome 17 and p53 locus in non-familial colorectal cancer with multiple primary malignancies	vol.20, n3, 2001, 401-405
武末 文男	福岡歯科大学外科学講座	Development of Colonic neoplasms and expression of p53 and p21 proteins in experimental colitis of mice induced by dextran sulfate sodium	vol.20, n3, 2001, 413-418
柳内 良之	札幌医科大学第1外科	Vascular endothelial growth factor C promotes lymph node metastasis by human gastric carcinoma in mice	vol.20, n3, 2001, 419-428
国安 弘基	広島大学第1病理	Prospective study of Ki67 labeling index in the mucosa adjacent to cancer as a marker for colorectal cancer metastasis	vol.20, n4, 2001, 543-548
福島 啓	札幌医科大学第1内科	Frequent alterations of the beta-catenin and TCF-4 genes but not of the APC gene in colon cancers with high frequency microsatellite instability	vol.20, n4, 2001, 553-559
小野 重弘	広島大学第1病理	Acetylated histone H4 is reduced in human gastric adenomas and carcinomas	印刷中
古川 文夫	国立医薬品食品衛生研究所 病理部	Spontaneous development of aberrant crypt foci in F344 rats	印刷中
掛地 吉弘	九州大学第2外科	Significance of Vascular endothelial growth factor expression in gastric cancer	印刷中
宮地 和人	獨協医科大学第1外科	Correlation between telomerase activity and telomeric repeat binding factors in gastric tissue	印刷中
伴 慎一	埼玉医科大学第2病理	Change in cytoskeletal phenotype and extracellular matrix production of muscularis mucosae during early invasive colorectal adenocarcinoma	印刷中
岸本 洋輔	鳥取大学臨床病理学	Molecular changes in early step of colon carcinogenesis in rats treated with azoxymethane	印刷中
中山 洋	東京大学腫瘍外科	Rat gastric adenocarcinoma cell line BV9 avidly adheres to lymphatic endothelium under lymphatic flow condition	印刷中
井口 東郎	国立病院九州ガンセンター臨床 研究部	A possible role of VEGF in the osteolytic bone metastasis of hepatocellular carcinoma	印刷中

国際消化器癌学会

ISGC OFFICERS

<i>President</i>	Heinz Hoefler	(Technical University of Munich, Munich, Germany)
<i>President Elect</i>	Bernard Levin	(U.T.MD Anderson Cancer Center, Houston, USA)
<i>Past President</i>	Hans G.Beger	(University of Ulm, Ulm, Germany)
<i>Secretary General</i>	Eiichi Tahara	(Hiroshima University, Hiroshima, Japan)
<i>Treasurer</i>	Wataru Yasui	(Hiroshima University, Hiroshima, Japan)

BOARD OF DIRECTORS

Shozo Baba	(Hamamatsu University School of Medicine, Hamamatsu, Japan)	1996-
Richard Boland	(University of California San Diego, La Jolla, USA)	1999-
Brian I.Carr	(University of Pittsburgh, Pittsburgh, USA)	1999-
Pelayo Correa	(Louisiana State University, New Orleans, USA)	1996-
Isaiar J. Fidler	(U.T.MD Anderson Cancer Center, Houston, USA)	1996-
Helmut E. Gabbert	(Heinrich-Heine-University Dusseldorf, Germany)	1999-
Gary A. Guber	(U.T.MD Anderson Cancer Center, Houston, USA)	1996-
Stanley R Hamilton	(U.T.MD Anderson Cancer Center, Houston, USA)	1996-
Curtis C.Harris	(National Cancer Institute, Bethesda, USA)	1996-
Setsuo Hirohashi	(National Cancer Center Research Institute, Tokyo, Japan)	1996-
Monica Hollstein	(German Cancer Research Center, Heidelberg, Germany)	1996-
Kohzoh Imai	(Sapporo Medical University, Sapporo, Japan)	1999-
Jeremy R.Jass	(University of Queensland, Brisbane, Australia)	1996-
Michio Kaminishi	(University of Tokyo, Tokyo, Japan)	1996-
Jin-Pok Kim	(Seoul National University, Seoul, Korea)	1996-
Tomoyuki Kitagawa	(Cancer Institute, Tokyo, Japan)	1996-
Yoichi Konoshi	(Nara Medical University, Nara, Japan)	1996-
Reuben Lotan	(U.T.MD Anderson Cancer Center, Houston, USA)	1996-
Masayoshi Mai	(Kanazawa University School of Medicine, Kanazawa, Japan)	1996-
Jim O'D.McGee	(University of Oxford, Oxford, UK)	1996-
Michael P.Manns	(Hannover Medical University, Hannover, Germany)	1999-
Ruggero Montesano	(International Agency of Research on Cancer, Lyon, France)	1999-
Takeshi Oohara	(Yokosuka Kyosai Hospital, Kanagawa, Japan)	1999-
Henry R.Shibata	(McGill University, Montreal, Canada)	1996-
Jorg Rudiger Siewert	(Technical University of Munich, Munich, Germany)	1996-
Michio Sowa	(Osaka City General Hospital, Osaka, Japan)	1996-
Keizo Sugimachi	(Kyushu University, Fukuoka, Japan)	1996-
Kari J.Syrjanen	(University of Kupio, Kupio, Finland)	1996-
Noritoshi Tanida	(Hyogo College of Medicine, Hyogo, Japan)	1996-
David Tarin	(University of California San Diego, La Jolla, USA)	1996-
Masaaki Terada	(National Cancer Center, Tokyo, Japan)	1996-
Bert Vogelstein	(Johns Hopkins Oncology Center, Baltimore, USA)	1996-
Hiroshi Yamazaki	(International Agency of Research on Cancer, Lyon France)	1996-
H.zur Hausen	(German Cancer Research Center, Heidelberg, Germany)	1999-

Nominating Committee

<i>Chair :</i>	Eiichi Tahara	(Hiroshima University, Hiroshima, Japan)
	Curtis C.Harris	(National Cancer Institute, Bethesda, USA)
	David Tarin	(University of California San Diego, La Jolla, USA)



効能・効果、用法・用量及び禁忌、原則禁忌を含む使用上の注意等は添付文書をご覧ください。

カルバベナム系抗生物質製剤 薬価基準収載

カルベニン[®] 点滴用

0.25g・0.5g

指定医薬品、要指示医薬品：注意—医師等の処方せん・指示により使用すること
パニベナム/ベタミブロン 略号：PAPM/BP



資料請求先
三共株式会社
〒103-8426 東京都中央区日本橋本町3-5-1

01.10

日本消化器癌発生学会総会歴代会長

回数	会 期	会 場	会 長(所属)(敬称略)	演題数
1	1989年 9 月 2 日	東京プリンスホテル (東京)	大原 毅 (東京大学第 3 外科)	62
2	1990年 9 月 1 日	西鉄グランドホテル (福岡)	杉町 圭蔵 (九州大学第 2 外科)	85
3	1991年 9 月 7 日	マーキュリーホール (前橋)	長町 幸雄 (群馬大学第 1 外科)	91
4	1992年 9 月 4～5 日	金沢市文化ホール (金沢)	磨伊 正義 (金沢大学がん研究所外科)	90
5	1993年 9 月10～11日	全共連ビル (東京)	恩田 昌彦 (日本医科大学第 1 外科)	89
6	1994年 9 月 2～3 日	神戸国際会議場 (神戸)	下山 孝 (兵庫医科大学第 4 内科)	105
7	1995年 9 月 8～9 日	大分コンパルホール (大分)	内田 雄三 (大分医科大学第 2 外科)	118
8	1997年 9 月 4～5 日	南海サウスタワーホテル (大坂)	曾和 融生 (大坂市立大学第一外科)	117
9	1998年 9 月10～11日	宇都宮東武ホテルグランデ (宇都宮)	金澤暁太郎 (自治医科大学消化器一般外科)	122
10	1999年 9 月 2～3 日	熊本ホテルキャッスル (熊本)	小川 道雄 (熊本大学第 2 外科)	117
11	2000年 9 月 7～8 日	米子コンベンションセンター (米子)	井藤 久雄 (鳥取大学第 1 病理)	115
12	2001年 9 月 6～7 日	シェーンバッハサボー (東京)	政男 (東京大学消化器内科)	78
13	2002年 9 月 5～6 日	千里サイエンスセンター (大坂)	門田 守人 (大阪大学外科)	

注意：1996年は第 1 回国際消化器癌発生学会 (1st International Conference of Gastroenterological Carcinogenesis) 開催のため、本会総会は開催されず。本会は第 8 回より学会として開催

国際消化器癌発生会議 (International Conference of Gastroenterological Carcinogenesis) 歴代会長 Date Venue Office President

1 1996/10/22-24 Hiroshima International Conference Center Hiroshima University (Hiroshima, Japan) Eiichi Tahara

2 1999/03/25-27 Congress-Center Ulm & Hotel Maritim University of Ulm (Ulm, Germany) Hans G. Beger

編 集 後 記

ニュースレターの第 2 号をお送りいたします。

昨年 9 月11日の米国中枢への同時多発テロは本学会の関連学会にも意外な影響を与えました。すなわち、第 3 回国際消化器癌発生会議への海外からの演題募集が少なく学術集会が成立しないという事態に陥ってしまいました。とても残念な事ですが、今回の学会までには十分な準備をお願いし、本会としても最大限のバックアップをして行きたいと考えています。

ところで、このニュースレターが皆様の御手元に届くころには、第13回日本消化器癌発生学会総会の抄録締め切りが近づいていることと思います。皆様、万障お繰り合わせの上ご参加頂き、学会を盛り上げて頂ければと思っております。

今後も、会員の皆様からのご意見・ご要望を取り入れ、より良い紙面作りを心がけていきたいと思っておりますので、よろしくお願ひいたします。

(文責：学会事務局幹事 清水)

発行 日本消化器癌発生学会事務局

〒113-8655 東京都文京区本郷 7-3-1

東京大学医学部附属病院消化管外科・乳腺内分泌外科内
TEL 03-3815-5411 (内線35141) FAX 03-5800-9731

発行者 日本消化器癌発生学会

編 集 総務委員会

印 刷 株式会社 靖文社

腫瘍組織にダイレクト・アプローチ



世界中で広く使用されている癌化学療法の基本薬剤

抗悪性腫瘍剤(フルオロウラシル製剤)

劇薬/指定医薬品/要指示医薬品*

(薬価基準収載)

注射療法

5-FU 協和

経口療法

5-FU 錠50・100 協和
ドライシロップ

* 注意-医師等の処方せん・指示により使用すること



製造発売元 (資料請求先)
協和発酵工業株式会社
東京都千代田区大手町 1-6-1
医薬ホームページアドレス
<http://iyaku.kyowa.co.jp/>

【警 告】

1) メトトレキサート・フルオロウラシル交代療法、レボホリナート・フルオロウラシル療法(5-FU協和(注射剤)のみ)：メトトレキサート・フルオロウラシル交代療法、レボホリナート・フルオロウラシル療法は本剤の細胞毒性を増強する療法であり、これらの療法に関連したと考えられる死亡例が認められている。これらの療法は高度の危険性を伴うので、投与中及び投与後の一定期間は患者を医師の監督下に置くこと。また、緊急時に十分措置できる医療施設及び癌化学療法に十分な経験を持つ医師のもとで、本療法が適切と判断される症例についてのみ行うこと。

なお、本療法の開始にあたっては、各薬剤の添付文書を熟読のこと。

2) テガフル・ギメラシル・オテラシルカリウム配合剤との併用により、重篤な血液障害等の副作用が発現するおそれがあるので、併用を行わないこと。

【禁忌(次の患者には投与しないこと)】

1) 本剤の成分に対し重篤な過敏症の既往歴のある患者
2) テガフル・ギメラシル・オテラシルカリウム配合剤投与中の患者及び投与中止後7日以内の患者

*「効能・効果」、「用法・用量」、「使用上の注意」は製品添付文書をご参照ください。

01.06